

本の万華鏡

推薦者 麻 潔
当 麻 潔
(とつまきよし)

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所所長研究員。1977年大阪市立大学工学部機械工学科卒業。同年大阪ガス株式会社入社。供給部門を皮切りに、総合研究所(株)キッレイ、(財)エネルギー総合工学研究所、環境部勤務を経て、2009年7月より現職。研究領域は、エネルギー、環境。

『エコイノベーション、持続可能経済への挑戦』

山本良一・鈴木淳史編著 —— 生産性出版 2008年



持続可能性(Sustainability)の概念は、国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」が1987年に発表した「地球の未来を守るため」における「持続可能な開発」にルーツがあり、持続可能性とは「将来世代のニーズを損なうことなく現世代のニーズを満たすこと」としている。元々は環境問題で使用されていたが、その対象は経済面や社会面に広がっている。企業が持続可能な発展に向けた活動を促進するための国際的なガイドラインであるGRI(Global Reporting Initiative)ガイドラインにおいても、企業活動を「経済面」「社会面」および「環境面」の3つの側面から評価しようというトリプルボトムラインの概念が示され、多くの企業はCSR報告書(持続可能性報告書)でこの3つの側面から企業活動を報告している。さらに最近はこの3つの分野に個人(生活満足度の向上等)を加える考え方もでてきている。

持続可能性において、地球温暖化問題や資源枯渇問題のような環境制約や資源制約の解消と継続的な経済成長は、相反するものであり、持続可能な発展のジレンマとなっている。将来にわたり持続可能性と豊かな生活の追求を可能にするためには、エネルギー消費やCO₂等の環境負荷の増大と経済成長の「鎖」を断ち切る、いわゆる「デカップリング(Decoupling)」が必要である。

このデカップリングのキーとなるのが技術革新である。エネルギー消費や環境負荷の増大を抑制するには、省エネルギーや再生可能エネルギー導入促進のための革新的技術の開発とその普及が必要である。さらに、この革新的技術が、生活者の満足度を向上させ豊かな生活の実現に寄与するならば、「持続可能性」と「生活満足」を両立させる解のひとつとなる。

本書は、「サステナブル経済」を実現するための具体的な条件を紹介するとともに、サステナビリティについて、5つの側面(エネルギー、環境、食糧、気候変動、生物多様性)から考察している。そして、サステナビリティのための基本戦略として、循環経済から持続可能経済への転換を図るための経済と環境の分離(デカップリング)およびエコイノベーションの必要性等を提案している。また、我が国におけるエコイノベーションとして、エコプロダクツとエコサービスの事例を紹介している。これらのエコイノベーションの中には、環境負荷を軽減させるとともに効用も向上し、「持続可能性」と「生活満足度の向上」に貢献するものが多く含まれている。

CEL

from editor's room

- 『現代住まい論のフロンティア—新しい住居学の視角』住田昌二編 ミネルヴァ書房(1996年)
- 『欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ』小玉徹、大場茂明、檜谷美恵子、平山洋介 ミネルヴァ書房(1999年)
- 『コミュニティエネルギーの時代へ』小澤祥司 岩波書店(2003年)
- 『エネルギーと環境問題』小澤祥司 旺文社(2004年)
- 『生活者と企業の豊かな関係をつくる女性たち』日本ヒープ協議会編 新水社(2004年)
- 『持続可能な地域社会のデザイン』植田和弘 公人の友社(2005年)
- 『NEXT21』NEXT21編集委員会 エクスナレッジ(2005年)
- 『都市のガバナンス』植田和弘、神野直彦、西村幸夫、間宮陽介編 岩波書店(2005年)
- 『「長生き」が地球を減ぼす—現代人の時間とエネルギー』本川達雄 阪急コミュニケーションズ(2006年)
- 『都市格と文化—大阪から全国へ』木津川計 自治体研究社(2008年)
- 『低炭素エコノミー』茅陽一編著 日本経済新聞社(2008年)
- 『世界の地球温暖化対策』浅岡美恵編著 学芸出版社(2009年)
- 『サステナブル・スイス』滝川薫 学芸出版社(2009年)
- 『幸福王国ブータンの智慧』アスペクトブータン取材班 アスペクト(2009年)
- 『ソーシャル消費の時代』上條典夫 講談社BIZ(2009年)
- 『地域を活かすつながりのデザイナー—大阪・上町台地の現場から』上町台地コミュニティ・デザイン研究会編 創元社(2009年)
- 『独居力 いくつか年をとったとき、あなたを助ける50の知恵』柏崎ふさお PHP研究所(2009年)
- 『ベーシック・インカム入門—無条件給付の基本所得を考える』山森亮 光文社(2009年)
- 『格差社会の統計分析』岩井浩、福島利夫、菊地進、藤江昌嗣 北海道大学出版会(2009年)
- 『世界で一番冷たい格差の国・日本=The Cold-hearted Society』矢部武 光文社(2009年)
- 『超・格差社会アメリカの真実』小林由美 文藝春秋(2009年)
- 『日本の株価—投資家行動と国際連関』筒井義郎 東洋経済新報社(2009年)